

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比  前月比 

- ・ウクライナ等で上方修正も、ロシア、カナダ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

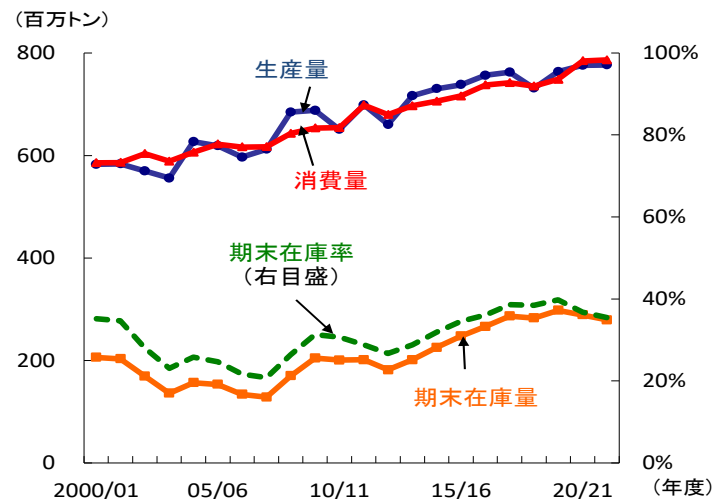
消費量 前年度比  前月比 

- ・EU等で上方修正も、ロシア、カナダ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

- ・ウクライナ等で上方修正も、ロシア、カナダ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」（2021.8.12）をもとに農林水産省にて作成

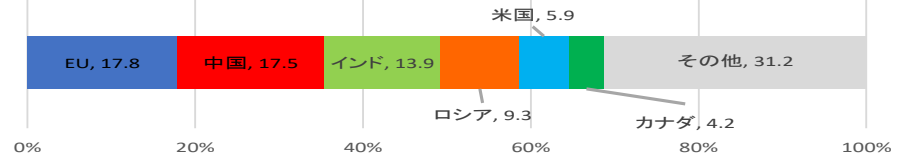
◎世界の小麦需給

（単位：百万トン）

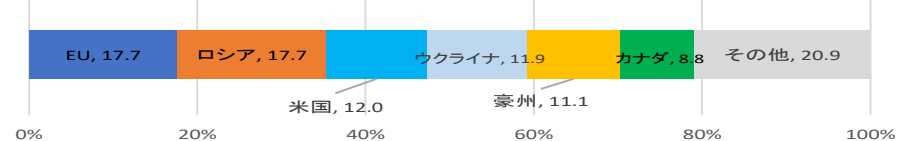
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	763.6	775.8	776.9	▲ 15.5	0.1
消 費 量	748.6	784.7	786.7	▲ 4.2	0.2
うち飼料用	139.0	158.2	157.4	▲ 3.2	▲ 0.5
輸 出 量	195.0	201.6	198.2	▲ 5.8	▲ 1.7
輸 入 量	187.6	194.3	196.4	▲ 5.6	1.1
期末在庫量	297.7	288.8	279.1	▲ 12.6	▲ 3.4
期末在庫率	39.8%	36.8%	35.5%	▲ 1.4	▲ 1.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 August 2021）

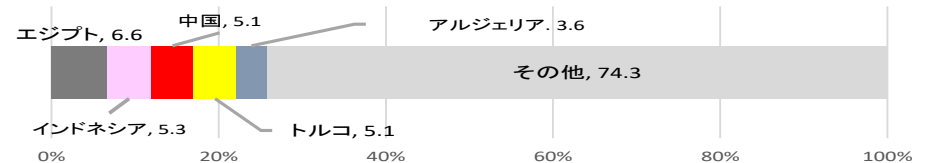
○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量（776.9百万トン）（単位：%）



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量（198.2百万トン）



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量（196.4百万トン）



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 北部の干ばつの影響で春小麦、デュラム小麦が減産見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、単収の低下により前月予測から 1.3 百万トン下方修正され、前年度に比べ 7.1 %減の 46.2 百万トン。

同「Crop Production」(2021.8.12)によれば、冬小麦は、単収が低下することから、生産量は前月予測から 3%下方修正されたものの前年度(31.9 百万トン)を 13%上回る 35.9 百万トン。また、春小麦は、プレーンズ北部の干ばつにより、単収が 2002/03 年度以降最低となることから、生産量は前月予測から約 1%下方修正され、前年度(15.9 百万トン)を 41%下回る 9.3 百万トン。デュラム小麦も同様に、単収が 1988/89 年度以降最低の水準に低下することから、生産量は前月予測から約 7%下方修正され、前年度(1.9 百万トン)を 50%下回る 0.9 百万トンで、ここ 60 年で最低の水準となる見込み。

なお、春小麦産地の 99%、デュラム小麦産地の 100%が、干ばつが継続する地域に含まれ、主要生産 6 州のうち生産量の最も多いノースダコタ州の生産量は、前年度に比べ春小麦が 37.5%、デュラム小麦が 54.8%減少する見込み。

同「Crop Progress」(2021.8.9~8.23)によれば、冬小麦は、8月8日時点で、収穫進捗率(主要生産 18 州)が前年度同時期の 89%を上回る 95%に達し、収穫はほぼ終了。春小麦は、乾燥天候で生育が早く進み、収穫進捗率(主要 6 州)は、8月22日時点で 77%と前年度同期の 58%、5年平均の 55%を上回っている。なお、作柄評価は、8月15日現在、良～やや良が 11%で、前年度同期の 70%を下回った。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、23.8 百万トン。米国太平洋岸北西部の干ばつ天候により、主にアジア市場向けに輸出されるホワイト小麦の輸出量は、生産量の減少で前年度に比べ 41%減少。このため、地理的に近い豪州への需要が強まる見込み。また、主に EU、北アフリカに輸出しているデュラム小麦の輸出量も、前年度の 60 万トンから本年度は 40 万トン以下に減少する見込み。

小麦－米国 (冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	52.6	49.7	46.2	▲ 1.3	▲ 7.1
消費量	30.4	30.5	32.2	▲ 0.3	5.8
うち飼料用	2.6	2.7	4.4	▲ 0.3	61.1
輸出量	26.4	27.0	23.8	-	▲ 11.8
輸入量	2.8	2.7	4.0	-	46.3
期末在庫量	28.0	23.0	17.1	▲ 1.0	▲ 25.8
期末在庫率	49.3%	40.0%	30.4%	▲ 1.7	▲ 9.6

(参考)
 収穫面積(百万ha) 15.13 14.87 15.42 - 3.7
 単収(t/ha) 3.47 3.34 2.99 ▲ 0.09 ▲ 10.5
 資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
 「World Agricultural Production」(12 August 2021)

図 米国の干ばつと春小麦生産地帯(8月10日)



資料: USDA[Wheat Outlook] (2021.8.12) をもとに農林水産省で加工

表 米国の小麦輸出先国別輸出量(輸出検証高)

(万トン)

2021年7月			2021年1月～7月			2020年1月～12月		
国名	検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)
中国	3.4	3.8	中国	751.8	39.2	フィリピン	329.8	13.0
メキシコ	26.7	29.9	メキシコ	243.3	12.7	メキシコ	287.3	11.3
インドネシア	14.5	16.3	インドネシア	129.9	6.8	日本	255.6	10.1
日本	12.6	14.1	日本	109.8	5.7	中国	210.3	8.3
スペイン	2.9	3.3	スペイン	49.6	2.6	韓国	140.2	5.5
その他	69.4	77.8	その他	632.3	33.0	その他	1,311.9	51.7
合計	89.1	100.0	合計	1916.8	100.0	合計	2,535.2	100.0

注1. 7月の輸出検証高は、7月8、15、22、8月5日の合計値

注2. 2021年累積輸出検証高は、2021年1月7日～8月5日の合計

注3. 2020年の累積輸出検証高は、2020年1月2日～12月31日の合計

資料: USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2021年8月13日)より作成。

< カナダ > 継続する平原三州の干ばつ天候で減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、広範囲な干ばつにより単収が低下することから、2021/22年度の生産量は、前月予測から7.5百万トン下方修正され、24.0百万トンと前年度に比べ31.8%減少し、2011/12年度以降最低となる見込み。

主要産地である平原三州では6月末から厳しい高温・乾燥天候が継続し、春小麦及びデュラム小麦の登熟が急速に早まり、結果として単収が低下した。8月予測の単収は、前月予測から0.81トン/ヘクタール下方修正され、2.61トン/ヘクタールと前年度に比べ25.6%減少し、2007/08年度以降最低となった。

各州政府の報告によれば、アルバータ州では降雨があったものの、生育の改善には遅すぎた。8月10日現在、やや良から良の作柄評価は、春小麦が20%(2週間前22%)、デュラム小麦が19%(同22%)と2週間前より低下した。サスカチュワン州では、8月16日現在、収穫が進展し、収穫進捗率は、冬小麦が83%(前年度54%)、春小麦が13%(同2%)、デュラム小麦が22%(同2%)と前年度を上回っている。マニトバ州では降雨があったものの、高温天候で土壌水分は減少。8月17日現在、やや良から良の作柄評価は前週の48%から46%に低下した。また、穀物の収穫進捗率は、21%と5年平均の14%を上回っている。なお、生産量全体に占める平原三州各州の割合は、アルバータ州が37%、サスカチュワン州が41%、マニトバ州が19%である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、干ばつによる生産量等の減少で、前月に比べ5.5百万トン下方修正され、17.5百万トンと2011/12年度以降最低の見込み。デュラム小麦は生産量の90%がイタリア、北アフリカ等に輸出されるが、トルコではカナダの減産に伴い安価なメキシコ産に切り替える模様。カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021年度の2020年8月～2021年6月までの輸出量は、普通小麦が18.5百万トンで、中国(15.5%)、インドネシア(11.6%)、デュラム小麦は5.6百万トンで、イタリア(26.1%)、モロッコ(19.0%)の順。また、期末在庫量は前月予測から0.8百万トン下方修正され3.0百万トンと史上最低の見込み。

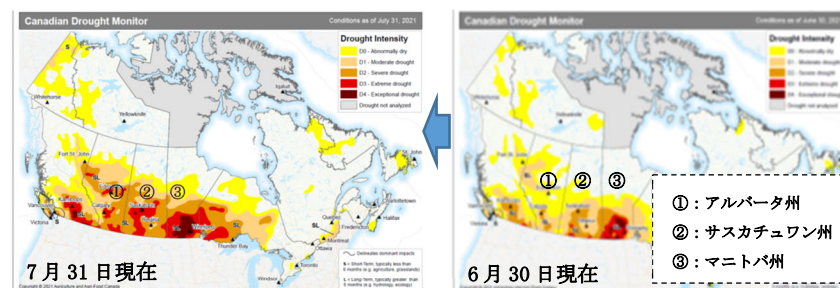
小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.7	35.2	24.0 (31.4)	▲ 7.5	▲ 31.8
消費量	9.3	9.9	8.0 (8.9)	▲ 1.2	▲ 19.2
うち飼料用	4.2	4.7	2.8 (4.5)	▲ 1.2	▲ 40.4
輸出量	24.6	27.5	17.5 (22.4)	▲ 5.5	▲ 36.4
輸入量	0.7	0.6	0.7 (0.1)	－	27.3
期末在庫量	5.5	3.8	3.0 (4.9)	▲ 0.8	▲ 20.9
期末在庫率	16.2%	10.2%	11.9% (15.7%)	▲ 0.0	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	9.20 (9.30)	－	▲ 8.2
単収(t/ha)	3.38	3.51	2.61 (3.38)	▲ 0.81	▲ 25.6

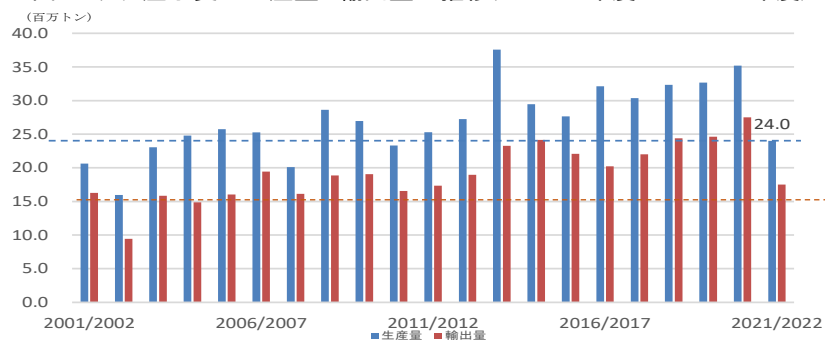
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
AAFC「Outlook For Principal Field Crops」(20 July 2021)

図 カナダの平原三州の干ばつ状況（7月31日、6月30日現在）



資料：AAFC「Canadian Drought Monitor」(2021.8.4、2021.7.4)

図 カナダ産小麦の生産量と輸出量の推移(2001/01年度～2021/22年度)



資料：USDA「PS&D」(2021.8.12)をもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 生産量は史上第3位の豊作

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積が増加し、単収が上昇することから、前月予測から1.5百万トン上方修正され、30.0百万トン。前年度に比べ9.1%減少するものの、史上第3位の豊作となる見込み。

同「World Agricultural Production」(2021.8.12)によれば小麦の国際価格水準の高さや主要産地の大部分で良好な生育条件に恵まれたことから収穫面積は増加した。また、特に2大生産地の西オーストラリア州(WA州)とニューサウスウェールズ州(NSW州)で単収は平均を上回る見込み。なお、豪州の生産量のうち、WA州は36%、NSW州は26%を占めている。

作付時からの豊富な降雨量で生育は順調に進んだが、7月及び8月上旬も、NSW州の南東沿岸地域等では平均を下回ったものの、WA州、NSW州の大部分、南オーストラリア州(SA州)等の各州で平均を上回る降雨に恵まれ、小麦の生長が促進された。

豪州気象庁によれば、今後10月にかけて大半の地域で例年以上の降雨がある見通し。

西豪州穀物協会(GIWA)によれば、同州の2021/22年度の実生産量は11.3百万トン。現状、土壌水分量は十分である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、価格競争力があることから、前月予測から1.5百万トン上方修正され22.0百万トン。主要輸出国の輸出量の減少やアジア市場に近いことから、特に、米国産小麦の市場であるアジア市場で豪州産需要が高まる見込み。一方、現地情報会社によれば、黒海諸国産小麦価格の上昇とロシアの輸出税の賦課で、アフリカ市場でも豪州産需要が高まると見られている。

また、2020/21年度の輸出も好調で、2020年10月から5月の輸出量は15.8百万トンに達した。同年度の国別輸出量は、前年度に比べ、中国、フィリピン等で増加したが、特にインドネシア、ベトナムは前年度対比でそれぞれ約5倍、約4倍と著しく増加。

豪州統計局によれば、2021年6月の輸出量は2.8万トンと5月の2.7万トンを上回った。輸出先国は、インドネシア(29%)、ベトナム(13%)の順で、中国は第4位(8%)。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.5	33.0	30.0	(29.3)	1.5	▲ 9.1
消費量	8.0	8.5	8.0	(7.8)	-	▲ 5.9
うち飼料用	4.5	5.0	4.5	(4.2)	-	▲ 10.0
輸 出 量	9.1	23.0	22.0	(19.4)	1.5	▲ 4.3
輸 入 量	0.9	0.2	0.2	(0.3)	-	-
期末在庫量	2.7	4.4	4.6	(5.9)	-	4.6
期末在庫率	15.6%	13.9%	15.3%	(21.6%)	▲ 0.8	1.4
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	9.86	13.00	13.20	(13.1)	0.10	1.5
単収(t/ha)	1.47	2.54	2.27	(2.20)	0.09	▲ 10.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)

IGC 「Grain Market Report」(29 July 2021)

写真：豪州 NSW 州の小麦の圃場(2021. 7. 26)



NSW 州バレランの豪州硬質小麦 Beckom 種の圃場。

この品種は、天候の変化への適応力があり単収が高い。降雨量が中程度の豪州東海岸地域での栽培に適している。

今年の上半期に降雨量が多く、10月までの長期予報でも降雨量が見込まれるため、豊作の見通し。

表 豪州の小麦輸出先国別輸出量

(万トン)

2021年6月			2021年1月～6月		
国名	輸出量	シェア(%)	国名	累積輸出量	シェア(%)
インドネシア	82.3	29.1	インドネシア	328.9	21.7
ベトナム	36.7	13.0	ベトナム	193.8	12.8
フィリピン	31.9	11.3	フィリピン	111.6	7.4
中国	23.6	8.3	中国	83.0	5.5
韓国	16.4	5.8	タイ	78.0	5.2
その他	91.8	32.5	その他	718.1	47.4
合計	282.7	100.0	合計	1,513.4	100.0

資料：豪州統計局のデータをもとに農林水産省で加工

< EU > フランス、ドイツ等で降雨による品質低下の懸念

【生育・生産状況】EU委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.7.29)によれば、2021/22年度の生産量(EU27)は、前月予測から1.8百万トン上方修正され、136.4百万トンの見込み。また、農業市場情報システム(AMIS)「Market Database Supply and Demand Overview」(2021.7.8)によれば、英国の同年度の普通小麦の生産量は前月予測からの変更は無く、14.5百万トンの見込み。

品種別の生産量(EU27)は、普通小麦が前月に比べ1.9百万トン上方修正され、128.7百万トンと前年度を9.0%上回る見込み。国別には、ドイツ等で下方修正されたものの、ポーランド等で上方修正された。一方、デュラム小麦は、前月に比べ0.1百万トン下方修正され7.7百万トンと同6.9%上回る見込み。国別にはスロバキア等で上方修正されたものの、イタリア等で下方修正された。

7月は、中央ヨーロッパで降雨が多く、フランス、ドイツを中心に一部に洪水被害が生じた。また、断続的な降雨により、穂発芽等による品質低下や、収穫の遅れが懸念されている。特にドイツでは今後も不安定な天候が続き、更なる品質の低下が懸念されている。一方、スペインでは良好な天候により豊作が見込まれている。

「FranceAgriMer」(2021.8.13)によれば、フランス産小麦の生育状況の良～やや良の割合は、普通小麦が74%、デュラム小麦が65%とそれぞれ前年度の56%、62%を上回っており、生育状況は良好である。収穫進捗率は、普通小麦が降雨により72%と、前年度の100%を下回った。

英国農業園芸開発公社(AHDB)(2021.8.2)によれば、英国では生育が遅れ、7月下旬に冬小麦の収穫が開始された。

【貿易情報・その他】USDAによれば2021/22年度の輸出量は、輸出余力の増加とロシアの価格競争力の低下により、前月予測から1.0百万トン上方修正され35.7百万トン。EU委員会によれば、2020年7月～2021年5月までの輸出量(EU27)は、普通小麦が前年同期を26.3%下回る24.9百万トン、デュラム小麦が同45.0%下回る0.7百万トン。

小麦－EU（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	154.3	135.6	153.6	(155.7)	0.6	13.3
消費量	122.6	117.9	124.2	(120.2)	0.3	5.3
うち飼料用	52.9	48.1	53.7	(41.4)	0.5	11.7
輸 出 量	41.4	31.2	35.7	(26.6)	1.0	14.5
輸 入 量	7.3	8.7	7.4	(18.2)	▲ 0.4	▲ 14.9
期末在庫量	15.3	10.5	11.6	(11.9)	▲ 1.1	10.4
期末在庫率	9.3%	7.1%	7.3%	(8.1%)	▲ 0.1	0.2
(参考)						
収穫面積(百万ha)	26.16	24.47	25.68	(25.31)	▲ 0.03	4.9
単収(t/ha)	5.90	5.54	5.98	(5.84)	0.01	7.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
IGC 「Grain Market Report」(29 July 2021)

表内及び()内のデータはEU27ヶ国+英国のデータ

写真 フランス、イル・ド・フランス地域的小麦(食用)圃場(2021年8月13日)



今年の小麦の生育状態は例年以上に良好であったため、収穫時期は7月末から8月頭を想定した。しかし、小雨が続き、小麦が収穫可能になる程度まで乾燥せず、収穫の実施が8月中旬にずれ込んだ。乾燥の目安は、3日間の継続した晴天である。穀粒水分が多い多湿状態で収穫をすると穀物にカビが発生する懸念がある。小麦の品質は、製パン段階で初めて評価が可能であるため、現時点で今年の小麦の品質を判断することは難しい。

表 EUの普通小麦輸出先国(2021年5月、2020年7月～2021年5月、2019年7月～2020年6月)

	2021年5月			2020年7月～2021年5月			2019年7月～2020年6月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	アルジェリア	56.6	30.4	アルジェリア	559.8	24.3	アルジェリア	607.1	16.9
2	ナイジェリア	28.1	15.1	モロッコ	227.3	9.9	サウジアラビア	335.6	9.4
3	サウジアラビア	14.1	7.6	ナイジェリア	219.8	9.5	モロッコ	263.2	7.3
4	エジプト	12.6	6.8	サウジアラビア	183.9	8.0	エジプト	229.4	6.4
5	イスラエル	9.5	5.1	中国	177.3	7.7	中国	222.0	6.2
6	その他	65.1	35.0	その他	1,120.7	48.7	その他	1,932.1	53.8
計		186.0	100.0		2,488.9	108.1		3,589.5	100.0

資料：欧州委員会「EU Cereals export and import」(2021.7.16)をもとに農林水産省で作成

< 中国 > 天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2021.8.5)によれば、2021/22 年度の実生産量は、前月予測から 0.7 百万トン上方修正され、対前年度比 2.1%増の 137.1 百万トンと史上最高の見込み。内訳は、作付面積が減少したものの単収が上昇したことから、冬小麦が前月予測から 0.7 百万トン上方修正され、前年度比 1.9%増の 129.3 百万トン、春小麦は前月予測からの変更はなく、同 4.9%増の 7.8 百万トン。

中国中央气象台(2021.8.6)によれば、冬小麦は陝西省や新疆自治区北部の一部を除いて収穫が終了。春小麦も、黒竜江省、青海省、新疆自治区等の一部を除き収穫は終了。

なお、7 月中～下旬の河南省の洪水については、収穫が終了しており影響はない模様。
【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の実消費量、輸入量とも前月予測からの変更はなく、それぞれ対前年度比 1.2%減少の 145.5 百万トン(飼料用は同 5.3%減少の 36.0 百万トン)、同 23.3%減少の 8.0 百万トンの見込み。

国家糧食和物資儲備局(2021.8.11)によれば、2021 年度の主産地における穀物の買付が進んでおり、8 月 5 日現在、主産地の冬小麦買付数量は 4,437.5 万トンで、河南省では 1,046.6 万トン、江蘇省では 982.8 万トンとなっている。

中国農産品供需形勢分析月報(6月)によれば、国内市場に新穀小麦が大量に流通し、国内小麦価格はやや下落した。依然として高いとうもろこし価格は今後低下に向かい、小麦の飼料用需要は減少する見込み。なお、加工用需要は大きくないものの、高水準な飼料用消費と、短期的にやや強い政府備蓄用の買付需要から、小麦価格は安定あるいは小幅下落にとどまる見込み。

中国海関統計によれば、2021 年 1 月から 6 月の小麦輸入量は前年同時期(3.2 百万トン)の 66.9%増の 5.3 百万トンとなった。同期間の輸入先国は、カナダ(31.5%)、米国(27.4%)、豪州(24.4%)の順で、この 3 ヶ国で全体の 83.3%を占めている。なお、1 月から 5 月の輸入先国別の傾向は、4 月から米国が増加傾向、一方、前年度 1 位であったフランスは減少傾向が続いていたが、5 月、6 月とも実績は無くなった。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	133.6	134.3	136.0	(130.2)	-	1.3
消 費 量	126.0	150.0	148.0	(132.0)	-	▲ 1.3
うち飼料用	19.0	40.0	35.0	(21.0)	-	▲ 12.5
輸 出 量	1.1	0.8	1.0	(1.3)	-	31.6
輸 入 量	5.4	10.6	10.0	(7.9)	-	▲ 5.8
期末在庫量	150.5	144.6	141.6	(139.8)	▲ 1.0	▲ 2.1
期末在庫率	118.5%	95.9%	95.0%	(104.9%)	▲ 0.7	▲ 0.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.00	(23.8)	-	▲ 1.6
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.91	(5.71)	-	3.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
IGC 「Grain Market Report」(29 July 2021)

図 中国の生産量、輸入量、期末在庫量の推移

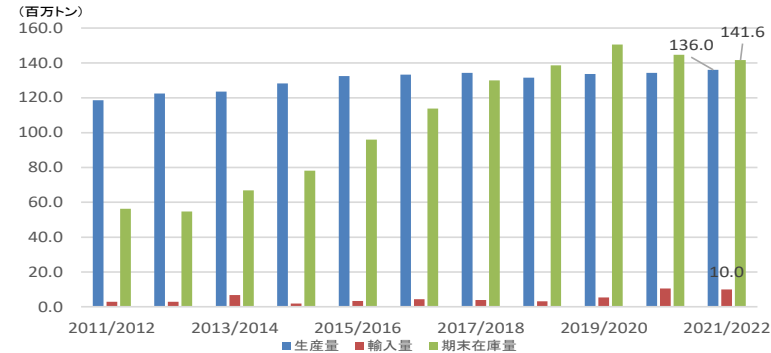


表 中国の小麦輸入先国(2021年6月、2021年1月～2021年6月、2020年1月～2020年12月)

	2021年6月		2021年1月～2021年6月		2020年1月～2020年12月	
	国 名	輸出量 (万トン)	国 名	輸出量 (万トン)	国 名	輸出量 (万トン)
1	カナダ	40.9	カナダ	168.4	フランス	238.3
2	米国	26.2	米国	146.5	カナダ	229.7
3	豪州	6.1	豪州	130.5	米国	178.4
4	カザフスタン	1.0	フランス	65.4	豪州	109.0
5	ロシア	0.9	カザフスタン	13.1	リトアニア	33.3
6	フランス	0.0	リトアニア	6.6	カザフスタン	19.2
7	リトアニア	0.0	ロシア	3.8	ロシア	7.2
計		75.2		534.3		815.2

出典：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

＜ ロシア ＞ 生産量は冬枯れ等により前月に比べ 12.5 百万トンの下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、前月予測に比べ 12.5 百万トン下方修正され、前年度に比べ 15.1%減少の 72.5 百万トンの見込み。

品種別の生産量の内訳は、冬小麦は収穫面積と単収の減少から、前月予測に比べ 13.5 百万トン下方修正され 50.5 百万トン、春小麦は収穫面積と単収が増加することから、同 1.0 百万トン上方修正され、22.0 百万トンの見込み。冬小麦は、中央連邦管区や沿ボルガ連邦管区で 2 月下旬から 3 月上旬に急激な気温上昇でスノーカバーが溶けた後、気温低下による土壌水分の再凍結から小麦が枯死し、収穫面積が減少した。

また、春小麦は、シベリア地方の生育条件が改善されたことや単収が高い中央連邦管区で枯死した冬小麦の代わりに春小麦を再作付したことで、単収及び収穫面積が増加した。一方、沿ボルガ連邦管区やウラル連邦管区では高温と乾燥から作柄が悪化する可能性がある。

なお、ロシア連邦統計庁(2021.6.30)によれば、冬小麦を含む冬穀物の枯死面積は、前年度(14.4 万ヘクタール)を大きく上回る 96.4 万ヘクタールである。

ロシア連邦統計庁によれば、本年度の小麦の収穫面積は前年度に比べ 0.72 百万ヘクタール減少の 28.70 百万ヘクタールで、そのうち、冬小麦は 15.60 百万ヘクタール、春小麦は 13.10 百万ヘクタール。ロシア農業省の速報値によれば、8 月 9 日時点の収穫面積は 16.10 百万ヘクタールで、収穫進捗率は 56.1%である。

本年度の品質は良好で、ロシア国営分析機関「農業分析センター」植物栽培局長によれば、8 月 9 日までに収穫された小麦の 24.7%にあたる 11.9 百万トンについて、1～4 等が 85.8%を占め、前年同日時点の 71.7%を大きく上回った。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/20 年度の実輸出量は、前月予測に比べ 5.0 百万トン下方修正され、35.0 百万トンの見込み。輸出関税賦課の継続で、EU やウクライナに市場を奪われる可能性がある。ロシア税関統計の速報値によれば、2020/21 年度(2020 年 7 月～2021 年 6 月)の実輸出量は 38.0 百万トンと 2017/ 18 年度に次ぐ高水準。

小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	73.6	85.4	72.5 (83.5)	▲ 12.5	▲ 15.1
消 費 量	34.5	38.5	40.0 (42.9)	▲ 2.5	3.9
うち飼料用	17.0	19.0	17.0 (18.7)	▲ 2.0	▲ 10.5
輸 出 量	34.5	38.5	35.0 (38.9)	▲ 5.0	▲ 9.1
輸 入 量	0.3	0.4	0.5 (0.3)	-	25.0
期末在庫量	7.2	12.0	10.0 (11.0)	▲ 5.0	▲ 16.7
期末在庫率	10.5%	15.6%	13.3% (13.4%)	▲ 4.9	▲ 2.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	27.31	28.68	28.00 (29.0)	▲ 1.00	▲ 2.4
単収(t/ha)	2.70	2.98	2.59 (2.79)	▲ 0.34	▲ 13.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
IGC 「Grain Market Report」(29 July 2021)

図 ロシア産小麦の生産量と輸出量の推移(2001/02～2021/22年度)

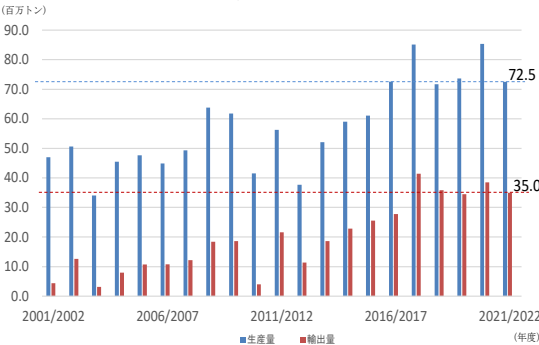


表 可変輸出関税額(小麦)

期間	関税額
2021.07.14～07.20	39.3ドル/トン
2021.07.21～07.27	35.2ドル/トン
2021.07.28～08.03	31.4ドル/トン
2021.08.04～08.10	31.4ドル/トン
2021.08.11～08.17	31.0ドル/トン
2021.08.18～08.24	30.4ドル/トン

輸出通関の前週の市況(ノヴォロシスクの平均FOB価格)が200ドル/トンを超えた場合に、超えた価格に70%の関税がかかる。

表 ロシアの小麦輸出先国(2021年6月、2020年7月～2021年6月、2019年7月～2020年6月)

	2021年6月			2020年7月～2021年6月			2019年7月～2020年6月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	トルコ	50.6	22.7	エジプト	813.5	21.4	トルコ	794.2	23.6
2	非公表	43.0	19.3	トルコ	698.7	18.4	エジプト	623.1	18.5
3	エジプト	22.3	10.0	非公表	205.4	5.4	バングラデシュ	229.8	6.8
4	イエメン	16.4	7.3	バングラデシュ	182.1	4.8	アゼルバイジャン	131.5	3.9
5	カメルーン	10.7	4.8	パキスタン	157.0	4.1	スーダン	114.3	3.4
6	その他	79.7	35.8	その他	1,747.3	45.9	その他	1,469.7	43.7
計		222.8	100.0		3,804.0	100.0		3,362.6	100.0

資料：ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成 (注)2020/21年度は、2020年7月から2021年6月

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ウクライナ等で上方修正も、米国、EU等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

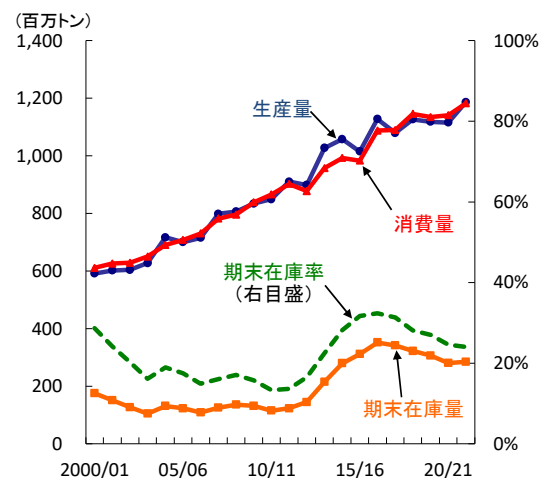
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ロシア等で上方修正も、米国、EU等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ウクライナ等で上方修正も、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2021. 8. 12）をもとに農林水産省にて作成

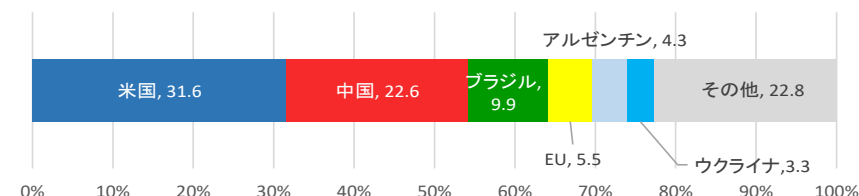
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

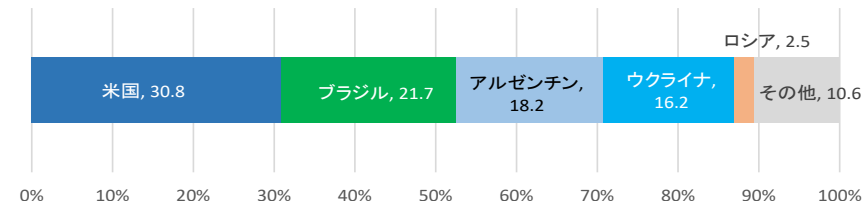
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,118.6	1,115.4	1,186.1	▲ 8.7	6.3
消費量	1,134.9	1,140.9	1,182.2	▲ 1.2	3.6
うち飼料用	715.9	727.7	743.9	▲ 3.7	2.2
輸 出 量	172.4	178.5	197.9	▲ 1.0	10.8
輸 入 量	167.6	184.2	184.6	▲ 3.0	0.2
期末在庫量	306.3	280.8	284.6	▲ 6.6	1.4
期末在庫率	27.0%	24.6%	24.1%	▲ 0.5	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 August 2021）

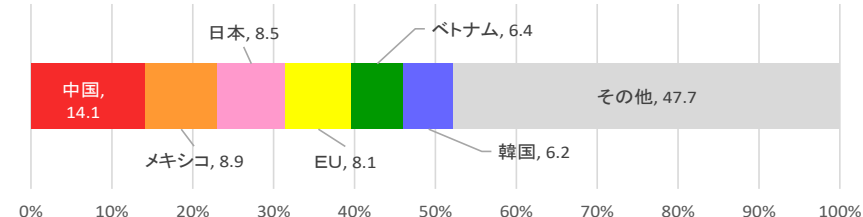
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,186.1百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(197.9百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(184.6百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 高温乾燥による単収下方修正も収穫面積増で増産、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、コーンベルト北西部の高温乾燥の影響を受け、同年度初めての作柄調査による予測単収が前月予測から0.3トン/ヘクタール下方修正されたことから、前月予測から10.5百万トン下方修正されたものの、前年度より4.0%増の374.7百万トンの見込み。「Crop Progress」(2021.8.23)によれば、主要18州におけるドウ進捗率は、85%と前年度同期(86%)より遅れているものの、過去5年平均(81%)より進んでいる。デント進捗率は、41%と前年度同期並み、過去5年平均(38%)より進んでいる。成熟進捗率は4%と前年度同期(5%)より遅れているものの、過去5年平均並みとなっている。作柄評価は、コーンベルト北西部の高温乾燥の影響により、良からやや良が60%と前年度同期(64%)を下回っている。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の飼料用消費量は、生産量の下方修正及びとうもろこし・飼料価格上昇により前月予測から2.5百万トン下方修正され、前年度より減少する見込み。一方、国内のワクチン接種の進展に伴い、自動車を運転する機会が増加することによる燃料用エタノールの需要増からエタノール向け需要は前年度より増加することから、消費量全体では前年度より0.1%増の311.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の下方修正に伴い、前月予測から2.5百万トン下方修正され、タイトな供給量と価格高騰、他の輸出国との競争の増加により、前年度より13.5%減の61.0百万トンの見込み。

なお、USDAによれば、輸出検証高(2021年1月7日～8月5日)は、48.4百万トンであり、内訳は中国(15.0百万トン)、メキシコ(9.4百万トン)、日本(8.8百万トン)、韓国(3.1百万トン)の順である。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、需要量より供給量の下方修正が大きかったため、前月予測から4.8百万トン下方修正されたものの、前年度より11.2%増の31.6百万トンの見込み。期末在庫率は8.5%で依然として低水準の見込み。

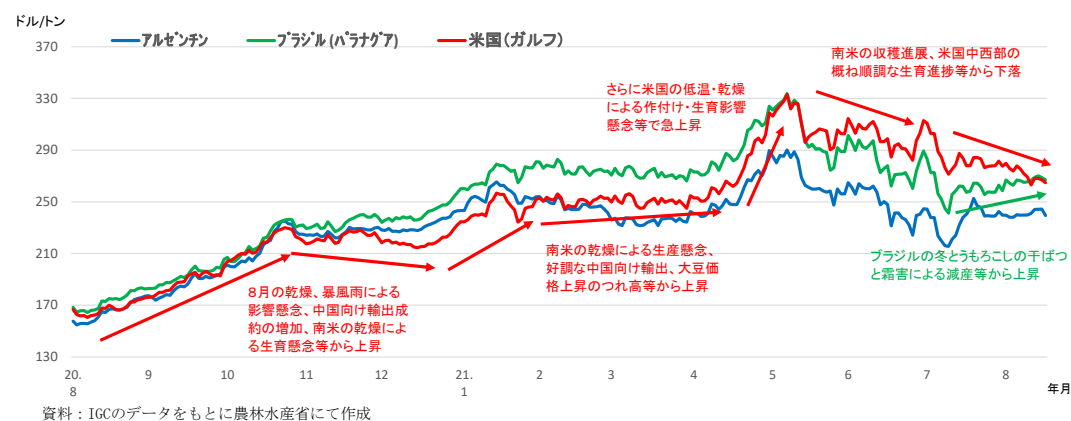
とうもろこし—米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	346.0	360.3	374.7	▲ 10.5	4.0
消費量	309.6	310.8	311.2	▲ 2.3	0.1
うち飼料用	149.9	145.4	142.9	▲ 2.5	▲ 1.7
エタノール用等	123.4	128.9	132.1	-	2.5
輸 出 量	45.1	70.5	61.0	▲ 2.5	▲ 13.5
輸 入 量	1.1	0.6	0.6	-	-
期末在庫量	48.8	28.4	31.6	▲ 4.8	11.2
期末在庫率	13.7%	7.4%	8.5%	▲ 1.2	1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.92	33.37	34.19	-	2.5
単収(t/ha)	10.51	10.79	10.96	▲ 0.31	1.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



＜ ブラジル ＞ 2020/21 年度冬とうもろこし生産見直し下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より 35.6%増の 118.0 百万トンとなり、史上最高の見込み。なお、2020/21 年度の実生産量は、ブラジル食料供給公社（CONAB）等の報告を受けて、マトグロッソ州以外の全州の単収が下方修正されたことから、前月予測から 6.0 百万トン下方修正され、87.0 百万トンの見込み。

CONAB 月例報告（2021.8.10）によれば、2020/21 年度の夏とうもろこしの生産量は、乾燥による作付け遅延と生育期の乾燥の影響により、前年度比 3.1%減の 24.9 百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされ、収穫中の冬とうもろこしの生産量は、4 月～5 月の南部の主産地での長引く乾燥天候に加え、6 月下旬から 7 月下旬にかけてのパラナ州等中南部の州の断続的な霜害の影響により、前月予測から 6.7 百万トン下方修正され、前年度比 19.7%減の 61.8 百万トンの見込み。合計では前年度比 15.5%減の 86.7 百万トンの見込み。（P.21 大豆ーブラジルのクロップカレンダー参照）。

2020/21 年度について、冬とうもろこしの主産地である中西部のマトグロッソ州では、8 月 13 日現在で収穫率は 99%。一方、南部のパラナ州では 8 月 16 日現在で収穫率は 39%で、前年度より 12 ポイント遅れている。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より 7.4%増の 73.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加により前年度より 87.0%増の 43.0 百万トンの見込み。なお、2020/21 年度の輸出量は、生産量が 6.0 百万トン下方修正されたことに伴い、前月予測から 5.0 百万トン下方修正され、23.0 百万トンの見込み。一方、2021/22 年度の輸入量は 1.7 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021 年 1～7 月の輸出量は 5.6 百万トンで、前年同期と比べ 22.0%減となっている。内訳は、1 位がエジプトで 89 万トン、2 位がイランで 78 万トン、3 位がスペインで 55 万トンとなっている。

とうもろこしーブラジル

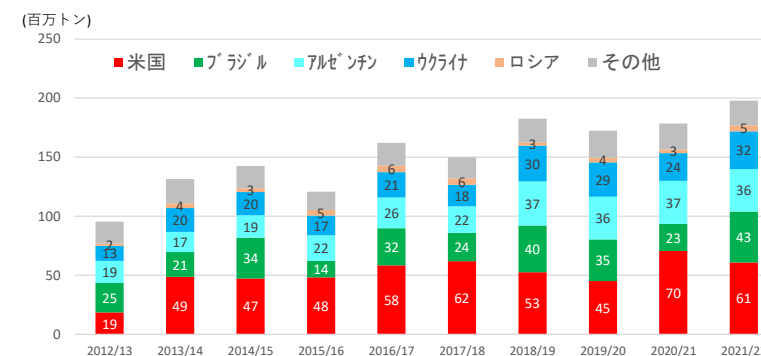
（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4）

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	102.0	87.0	118.0	(117.4)	-	35.6
消 費 量	68.5	68.0	73.0	(76.2)	-	7.4
うち飼料用	58.5	58.0	62.0	(55.7)	-	6.9
輸 出 量	35.2	23.0	43.0	(40.0)	-	87.0
輸 入 量	1.7	3.5	1.7	(0.5)	-	▲ 51.4
期末在庫量	5.2	4.7	8.4	(5.8)	▲ 0.5	78.2
期末在庫率	5.0%	5.2%	7.3%	(5.0%)	▲ 0.4	2.1
(参考)						
収穫面積(百万ha)	18.50	19.83	20.80	(20.60)	-	4.9
単収(t/ha)	5.51	4.39	5.67	(5.70)	-	29.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
IGC「Grain Market Report」(29 July 2021)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.8.12)のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 増産見通しも輸出税継続

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より 5.2%増の 51.0 百万トンの見込み。なお、2020/21 年度の生産量は、48.5 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所（2021.8.19）によれば、2020/21 年度の収穫進捗率は 98%で、過去 5 年平均より 5 %進んでおり、収穫はほぼ終了した。単収が予想を上回り、生産量は前週から 2.5 百万トン上方修正され、50.5 百万トンの見込み。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 5.8%増の 14.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 1.4%減の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年 1 ～ 6 月の輸出量は 17.5 百万トンで、前年同期（20.0 百万トン）より 12.6%減。内訳は、1 位がベトナム 3.1 百万トン、2 位がエジプト 1.9 百万トン、3 位がアルジェリア 1.6 百万トン。7 月 26 日に 180 日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7 %から 12%へ引き上げ、その後継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.0	48.5	51.0	(61.8)	-	5.2
消 費 量	13.5	13.7	14.5	(22.5)	-	5.8
うち飼料用	9.5	9.7	10.5	(17.5)	-	8.2
輸 出 量	36.3	36.5	36.0	(36.5)	-	▲ 1.4
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	3.6	1.9	2.4	(8.1)	▲ 0.2	26.6
期末在庫率	7.3%	3.8%	4.8%	(13.7%)	▲ 0.4	1.0
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.30	6.20	6.25	(8.10)	-	0.8
単収(t/ha)	8.10	7.82	8.16	(7.63)	-	4.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
IGC 「Grain Market Report」(29 July 2021)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこし圃場の収穫風景
(7月27日撮影)



< 中国 > 収穫面積増で増産、飼料用需要も増加見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、価格高騰と政府の増産政策による収穫面積の増加から前年度より2.8%増の268.0百万トンの見込み。

中国中央气象台(2021.8.6)によれば、8月上旬現在、東北地区の春とうもろこしは7月の適度な降雨により生長に有利で、おおむね開花期からシルキング期に入っている。河南省等の夏とうもろこしは、節間伸長期からシルキング期に入っている。なお、7月中旬から下旬に発生した河南省の豪雨被害が生産全体に与える影響は大きくないとみられる。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、ASF発生の影響も残るものの、養豚数の回復とレストランの食品残渣や低品質の飼料でまかなっていた小規模畜産経営から大規模経営に移行したことからとうもろこしを主原料に切り替えたため、飼料用消費量が増加し、前年度より1.7%増の294.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ26.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～6月の輸入量は15.3百万トンで、前年同期の4.2倍となり、前年の年間輸入量の1.4倍。内訳は、米国産8.8百万トン(58%)、ウクライナ産6.4百万トン(42%)で、前年同期はウクライナ産が93%を占めたが、米国産の輸入が大幅に増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報6月号」によると、6月の国内流通価格は、輸入とうもろこしが続々と国内市場に投入され、新穀とうもろこしの作付面積が大幅に増加したことから市場の供給不安が緩和され、2,920元/トンとやや下落した。一方、6月の外国産価格も2,700元/トンと下落したものの、下落幅が小さかったことから、内外価格差は縮小した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

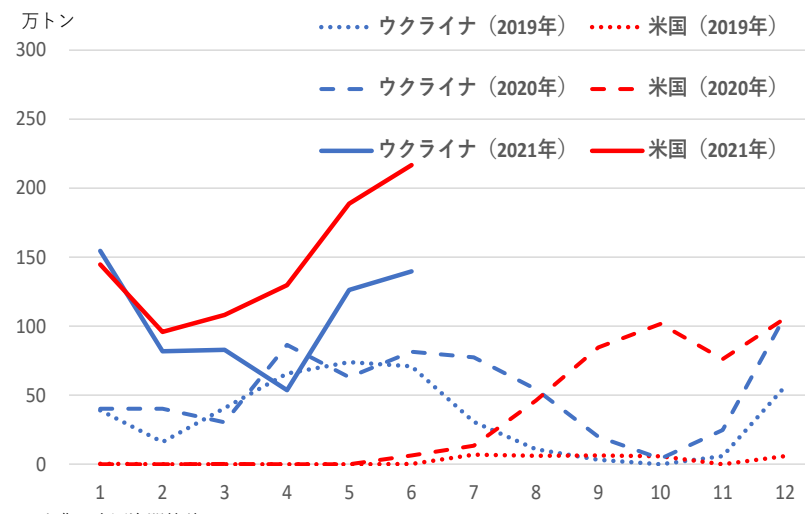
とうもろこしー中国

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	260.8	260.7	268.0 (272.8)	-	2.8
消 費 量	278.0	289.0	294.0 (297.7)	-	1.7
うち飼料用	193.0	206.0	211.0 (192.5)	-	2.4
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	7.6	26.0	26.0 (16.5)	-	-
期末在庫量	200.5	198.2	198.2 (182.1)	-	▲ 0.0
期末在庫率	72.1%	68.6%	67.4% (61.1%)	-	▲ 1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	42.00 (42.90)	-	1.8
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.38 (6.36)	-	0.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
IGC 「Grain Market Report」(29 July 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分